

長崎県五島列島（ドローンを利用した医薬品配送）



参議院議員・薬剤師 神谷政幸

令和6年8月8日と9日の両日、長崎県五島列島を訪問し、離島での医薬品供給体制と病院薬剤師の派遣事業を視察しました。今回は五島列島で実施されているドローンを利用した医薬品配送についてご紹介します。長崎県薬剤師会の井手副会長、日本病院薬剤師会の武田会長、長崎県病院薬剤師会会長で長崎大学病院の大山薬剤部長とご一緒に訪問させていただきました。

豊田通商株式会社は、グループ会社「そらいいな株式会社」を五島市に設立し、令和4年5月からジップライン社製のドローンを使用した医療用医薬品の配送事業を開始しました。このドローンは各目的地別に1日2~4便体制で運用されており、発注から2時間以内の配送が可能です。現在、医薬品の配送コストは医薬品卸、及びそらいいな社の協力によって賄われており、拠点設立時には助成金も活用されました。特に長崎大学病院等、島外の医療機関を受診した患者さんの処方薬が地元にはない場合でも、ドローン配送によって医薬品の安定供給が確保されています。福江島のドローン基地での発着試験飛行を視察した後、意見交換の場を設けていただきました。

翌日、中通島でうおのめ薬局を運営される五島薬剤師会会長の濱崎和久先生からお話を伺った後、有川港で医薬品を入れたパラシュート付きの箱の投下による配送現場を視察しました。ドローンの積載量は約1キロで、これまでに配送された医薬品の品質に問題はなく、配送は大きな助けとなっています。

今年6月に開催された国家戦略特区諮問会議では、長崎県と福島県が全国で初となる「新技術実装連携“絆”特区」に指定されました。現在は海上のみが飛行ルートとなっていますが、特区指定により、将来的には有人エリアでの目視外飛行が可能となり、さらなる利便性の向上が期待されています。離島やへき地での医薬品供給体制を、今後も引き続き支援してまいります。

